

ニホンザルの対策



和名	ニホンザル
分布	本州、四国、九州
生息環境	広葉樹林、農地、市街地
体長	成獣 50cm～70cm 程度
体重	10kg～20kg 程度

日本に生息する固有種で、社会性を持ち、群れで活動する霊長類です。

体長、体重共に雄の方がやや大きく、雌は雄よりやや小さいです。

植物質を中心とした雑食性で、主に果実や植物の新芽や花、昆虫や小動物を食べますが、適応範囲が広く、なんでも食べることができます。

2～3年毎に繁殖を行い、春から夏にかけて1頭(稀に2頭)の子どもを産みますが、農地に依存する個体では栄養状態が良くなり、毎年出産するようになります。雌を中心に、その子供たちと複数の雄からなる数十頭から数百頭の群れを形成し一定の範囲内で場所を変えながら移動する生活をします。ヒトと同じで、夜は眠り、昼間しか活動しません。

寿命は20年程度で、雌は死ぬまで群れに留まりますが、雄は6～8歳で群れを離れ単独もしくは、少数の雄グループを形成し生活し、やがて別の群れに入ります。本市では、熱塩加納町、山都町、高郷町に複数の群れが生息しており、集団で農地に出没し農作物に被害を与えています。



エサになるものを野外に放置しない

- サルは目がとても良く、いつでもエサを狙っています。収穫残渣や生ごみは野外に放置せず、適切に処分しましょう。
- 収穫した作物は、軒先などに保管せず小屋などの屋内に保管するようにしましょう。
- お墓のお供え物は、長期間置いたままにせず、早めに回収するようにしましょう。

徹底した追い払いを

- サルが唯一恐れているものは人間です。農地に出没しているところを脅かされたり、追いかけられたりすると、怖い思いをした集落へは近づかなくなります。
- 追い払いをしていると、サルが逃げなくなったと感ずることがあります。サルは学習能力が高いため、自分に害がないと理解すると次第に逃げなくなっていきます。特に、花火を使った追い払いでは、花火の到達距離を理解してしまいます。追い払いの効果を維持するためには、大変だからと遠くから花火を発射するのではなく、なるべく近くから打つようにしましょう。
- 追い払いに驚いて、サルが山に逃げ行っても、しばらくするとまた農地にでてくることがあります。これは、サルが人間を観察していて、人間がいなくなったから安全との思いが出てきているのです。対策として、サルが逃げた後も、しばらく農地に留まり、サルに人間がすぐにはいなくならないと思わせてください。
- 追い払いは、一人で行うより複数人で行った方が効果を発揮します。出没した場合は、集落内で連絡を取り、なるべく多い人数で追い払うようにしましょう。

電気柵の設置が効果的

- 電気柵は正しく設置できれば大きな効果を発揮します。
- 電気柵を設置する場合は、建物や木からは最低5m以上離すようにしましょう。距離が近いとサルはジャンプして柵を乗り越えてしまいます。
- サルは、手を使う器用な動物です。電気柵と農作物の距離が小さい場合は、柵の外から手を伸ばして盗まれてしまうことがあるため、一定の距離を置いて柵を設置しましょう。

サルを目撃したら情報共有を

- サルの群れは、決まった行動域を持ち、出没する集落や出没頻度が決まっています。その日の出没位置が判明すれば、翌日の出没を予想することができるため、サルを目撃した場合は、時間と場所をなるべく詳細に記録し、市民生活課有害鳥獣対策室、もしくは各総合支所住民課市民サービス班に連絡をお願いします。

お問い合わせ先	電話番号
喜多方市市民生活課有害鳥獣対策室	0241-24-5261
熱塩加納総合支所住民課市民サービス班	0241-36-2113
塩川総合支所住民課市民サービス班	0241-27-2123
山都総合支所住民課市民サービス班	0241-38-3825
高郷総合支所住民課市民サービス班	0241-44-2113